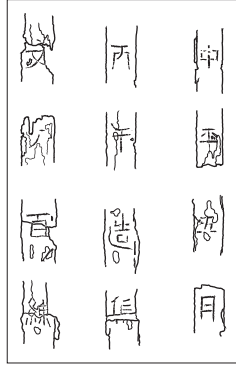


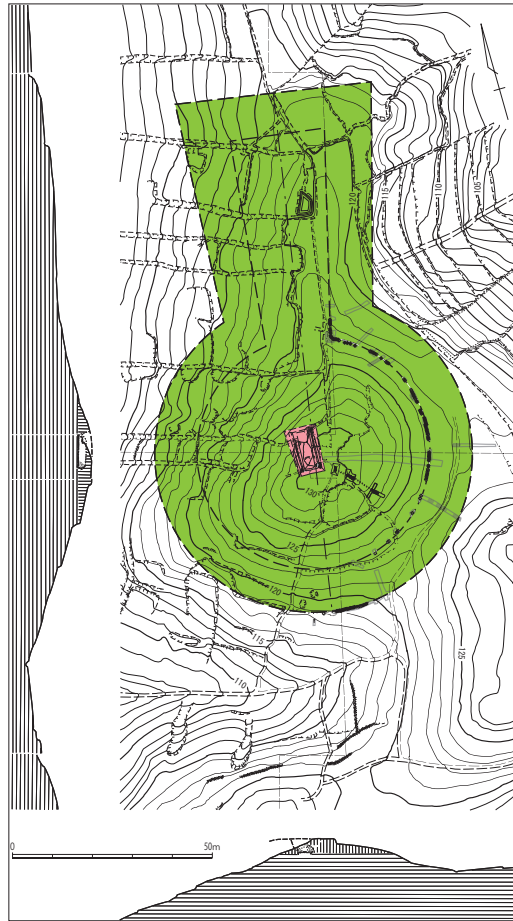
謎の刀



写真中央が中平銘鉄刀



鉄刀の銘文の一部。「中平」の文字が冒頭に見える。



東大寺山古墳の測量図（全長約 130m。前方部西側は崩れている）

「中平」の年号を刻んだ鉄刀

被葬者を葬った棺の外側には、鉄刀・鉄剣・鉄槍など、多量の武器や武具が並べられていました。

とくに有名な中平銘鉄刀は、全長 110cm の刀身の棟の部分に金象嵌で 24 文字の吉祥句を表し、「中平□□(年) 五月丙午造作文(支) 刀百練清剛上応星宿□□□□(下避不祥)」と読むことができます。銘文の冒頭に刻まれた後漢の年号、「中平」(紀元後 184 ~ 190 年) は、考古資料に記された国内で最も古いものです。

2 世紀末の中国で製作された鉄刀が、いったい、どのような経緯で奈良盆地にもたらされ、4 世紀後半に築造された東大寺山古墳の副葬品になったのか、謎が付きません。

東大寺山古墳から出土した多数の鉄刀のなかには、オリジナルの鉄刀を改造して、家形や花形をした日本列島産の青銅製環頭を取り付けたものが多く見られます。

東大寺山古墳の発掘調査

古代のワニ氏の拠点とされる天理市櫛本町に所在する前方後円墳ですが、現在は竹藪に覆われています。昭和 36 年(1961 年)、天理参考館が発掘調査を行い、埋葬施設の粘土槨から、多数の刀剣類や石製品が発見され、4 世紀後半(古墳時代前期後半)に築造されたことがわかりました。また、墳丘に並べられた円筒埴輪の位置から、墳丘の長さは約 130m と復元されました。東大寺山古墳の副葬品は、2017 年、一括で国宝に指定されることになりました。

被葬者の権威を示す石製品

埋葬施設の粘土槨からは、貝製腕輪や土器の形を模倣した多数の石製品が見つかりました。古墳時代の腕輪形石製品のなかでも特にランクが高いとされる鉄形石が 26 点も出土したのは、他に例がありません。



副葬された大量の腕輪型石製品